

流通とSC・私の視点

2011年10月16日

視点(1458)

I Saw All China (その5) !!

－ 米国・日本・中国へのSCノウハウの伝承 －

伝承とは、1つの事柄を受け継いで後世へ伝えていくことを意味します。ここでの伝承とは、「SCノウハウ」を流通先進国から流通後進国へ伝えていくことです。

SCはヨーロッパのガレリア（ヨーロッパ型商店街）のアメリカ版として生まれました。SCは「産業革命後の大量生産→大量販売→大量消費システム」を背景として、

- ①中産階級（1人当たりDGP1万ドル）の出現
- ②車社会（世帯の車保有率50%）の実現
- ③人口の大移動（地方から都会、都会の中心街区から郊外）

が起こった時に発展します。

各国々は、経済の発展度によって「先進国と後進国」に分けられます。この発展度の差を「経済時差」と呼びます。

すなわち、どこの国も経済の発展が同じレベルになると、同じ経済現象が起こることを意味します。ただし、経済時差でないそれぞれの国の固有の特性から生じる現象は「国情格差」であり、後進国が先進国になっても同じ経済現象は起こりません。

このように先進国と後進国は「経済格差」と「国情格差」によって経済進化のメカニズムが異なります。

米国・日本・中国の経済格差に基づくSCの推移は次の通りです。

	米 国	日 本	中 国
1945年代	● 導入期 15年		
1950年代			
1960年代	● 成長期 20年	● 導入期 10年	
1970年代		● 成長期 40年	
1980年代	● 飽和期 20年		
1990年代			
2000年代	● 成熟期 30年	● 飽和期 10年	● 導入期 10年
2010年代		● 成熟期 20年	● 成長期 30年
2020年代			
2030年代	● ?	● ?	● ?

「導入期」は、SCの萌芽期で、「成長期」はSCが続々と開発されている時期で、「飽和期」は量的にはほぼ開発されつくし、競争が激化し、過渡期や課題SCが淘汰され始める時期で、「成熟期」はSC数やSCの売上高の量的拡大はないが棲み分けや適正立地の適正規模のSCが成立し、また、新型SCの出現等による質的SC時代を意味します。

このように、アメリカから始まったSC時代が日本へ波及し、さらに中国へ波及する現象を「SCノウハウの伝承」（時代経過を伴う波及）と言います（六車流：SC理論）。

現在、アメリカではSCは成熟期、日本ではSCは飽和期に突入し、SCの量的発展は望めません。ただ、新たな業態としてのSCは出現しますが、旧型SCが淘汰される「新陳代謝」が起こります。

中国はこれからがSCの成長期で、SC数やSCの売上高が飛躍的に高まります。アメリカから日本、日本から中国へのSCノウハウの伝承が始まりました。中国は2011～2039年の30年間はSCの成長期で、SCの黄金期時代となります。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代 表 六 車 秀 之